

八戸市中央卸売市場 青果部 取扱高実績

資料 1

1. 取扱高 期間：令和4年1月から9月まで（開市日数 189日）
 数量：68,088 t（前年同月比 92.7%）
 金額：15,694,199 千円（前年同月比 96.4%）

2. 月別取扱高

上段：数量(t)と前年同月比 下段：金額(千円)と前年同月比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年同月取扱高
野菜	4,730	5,198	5,941	6,208	6,011	7,721	8,229	7,066	8,519				59,622	63,876
	111.5%	84.4%	85.1%	101.6%	97.2%	100.7%	81.9%	94.8%	94.3%	0.0%	0.0%	0.0%	93.3%	
	1,209,275	1,377,303	1,525,422	1,353,328	1,382,929	1,371,906	1,519,462	1,426,153	1,637,015				12,802,793	13,414,202
	92.9%	76.2%	93.6%	94.5%	105.3%	100.6%	104.5%	105.5%	93.0%	0.0%	0.0%	0.0%	95.4%	
果実	986	1,080	1,043	876	672	628	772	1,123	1,022				8,202	9,287
	100.8%	81.0%	89.5%	90.7%	81.9%	82.5%	70.2%	96.9%	102.0%	0.0%	0.0%	0.0%	88.3%	
	290,251	323,246	353,188	300,069	262,249	279,984	308,492	361,269	283,929				2,762,677	2,724,855
	128.0%	105.0%	105.7%	110.7%	99.7%	101.1%	79.8%	94.8%	102.4%	0.0%	0.0%	0.0%	101.4%	
その他 (野菜・果実加工品、鳥卵、その他)	33	34	47	32	39	18	20	20	21				264	298
	86.8%	83.2%	106.3%	118.1%	77.6%	72.1%	73.5%	83.9%	98.9%	0.0%	0.0%	0.0%	88.6%	
	17,493	19,986	21,210	12,725	15,114	9,071	9,756	12,424	10,950				128,729	142,220
	98.0%	92.6%	93.6%	110.4%	76.4%	86.0%	74.0%	90.9%	95.7%	0.0%	0.0%	0.0%	90.5%	
合計	5,749	6,312	7,031	7,116	6,722	8,367	9,021	8,209	9,562				68,088	73,461
	109.3%	83.8%	85.8%	100.2%	95.3%	99.0%	80.7%	95.1%	95.1%	0.0%	0.0%	0.0%	92.7%	
	1,517,019	1,720,535	1,899,820	1,666,122	1,660,292	1,660,961	1,837,710	1,799,846	1,931,893				15,694,199	16,281,277
	98.1%	80.5%	95.6%	97.1%	104.0%	100.6%	99.1%	103.1%	94.3%	0.0%	0.0%	0.0%	96.4%	

3. 入荷及び価格の状況

〔野菜〕

1月は、新型コロナウイルスの感染拡大により、外食産業需要が低迷し、主力である県内産のごぼうでも在庫を抱えてしまうほど荷動きは鈍化した。
 2月は、日本海側や内陸部では記録的な大雪のため生育停滞や凍害が多くの品目でみられ、数量の確保が難しくなったため、大根・キャベツ・レタス等においては相場が上昇した。一方、県内産の長いも・ごぼう・にんにくは、外食産業需要の低迷や、昨年の高値反動もあり厳しい相場展開となった。
 3月は、気温の上昇に伴い、これまで生育が遅延傾向であった茄子・トマト・ピーマン等の果菜類の順調な入荷が続いた。県内産の長いもは、A品や太物の荷動きは厳しい相場であったが、C品や加工向けでは引き合いが強かった。県内産のにんにくは単価安が続いていたが、下旬にかけて徐々に入荷が減少し、やや回復の兆しが見られた。
 4月になり気温が上昇し始めると多くの品目の生育が進み、結果として単価安の月となったが、5月には数量減の高値基調となし、多くの品目において平均単価を上回る取引が続いた。
 7月は、天候不順が生育状況や入荷量に大きく影響を与え、価格は高値水準で推移した。
 8月は、長雨等の天候不順の影響から入荷量は少なく、大根・ほうれん草・ねぎ・レタス・トマト・ごぼう・長いも等、多くの品目において平年を上回る価格となった。
 9月、7～8月にかけての長雨の影響による県内産の大根の相場は落ち着いたものの、生育遅れや品質不足のため依然として入荷量は少なく、価格は平年を3割ほど上回る堅調な販売となった。北海道産の人参や県内産のごぼうも入荷量は少なく、ごぼうに至っては昨年の半分程度の入荷量であったため引き合い強く高値が続いた。一方、果菜類のピーマンは安定出荷のため平年を下回る価格で軟調。県内産の長いもは荷動き自体は良いもののA品の単価は伸び悩んだ。にんにくも加工物が多く平均単価を下回った。

〔果実〕

1月、県内産のりんごは、依然として産地高値の傾向が続き、小・中玉果を中心に荷動きは活発であった。静岡三ヶ日産の青島みかんは前進化で前月に出荷が早まったため、年明けからの入荷が漸減した一方、デコボンや伊予柑等の中晩柑類の入荷は増えてきたが、荷動きとしては厳しいものとなった。いちごは、寒波の影響で入荷が少なく、昨年より2割ほどの単価高となった。
 2月、りんごは残量が少ないことから下等級品においても単価高が続き、高値疲れが見られるほどであった。いちごは、気温低下の影響から入荷が減少し高値。輸入果実は、じり高の相場により厳しい荷動きであったが、パインアップルは価格に値頃感があり荷動きは良かった。4月になると、りんごは無袋から有袋へと切り替わったが、依然入荷量が少なく一段高となった。
 5月からは、茨城県産メロンと千葉県産の西瓜の入荷が始まった。天候不良の影響から小玉傾向であったが、入荷は少なく単価高となった。6月は、県内産のさくらんぼが主力。10日ほど前進出荷となったが、生育時の天候不良の影響で玉割れが発生し、当初予定より大幅な数量減となったため単価高で推移。茨城県産のメロン、千葉県産の西瓜、山梨県産の桃・プラムも主力の販売となった。8月はお盆の需要期ではあったが、長雨の影響から生育が悪く、メロン・西瓜・桃等、多くの品目において品質不良がみられた。輸入品は、入船の乱れやコンテナ不足に加え、コロナ禍による人手不足等の影響から入荷は安定しなかった。バナナでは品質不良が多くみられた。消費低迷もあり、盆明けの荷動きも活気がみられず厳しい状況が続いた月となった。
 9月は関東産の梨が販売の中心。和歌山県産の柿、県内産のサンつがるも入荷が増加し、秋果実が本格販売を迎えた。山梨県産のピオーネやシャインマスカットの荷動きも良好だった。

八戸市中央卸売市場 花き部 取扱高実績

1. 取扱高 期間： 令和4年1月から9月まで（開市日数 182日）
 数量： 9,141 千本（前年同月比 97.2%）
 金額： 860,760 千円（前年同月比 106.4%）

2. 月別取扱高

上段：数量(千本・千鉢・千個)と前年同月比 下段：金額(千円)と前年同月比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年同月取扱高
切花	594	671	1,477	848	841	737	734	1,392	1,080				8,374	8,570
	104.0%	93.5%	93.9%	101.8%	96.4%	98.1%	91.5%	102.4%	98.9%	0.0%	0.0%	0.0%	97.7%	
	56,456	56,898	133,464	75,187	77,789	61,131	65,180	134,984	104,161				765,251	698,044
	130.1%	109.2%	97.6%	119.2%	121.7%	100.5%	105.0%	113.7%	107.2%	0.0%	0.0%	0.0%	109.6%	
鉢物	4	6	12	14	12	7	4	1	5				64	85
	51.2%	66.6%	89.3%	77.8%	97.4%	66.9%	52.4%	49.8%	93.2%	0.0%	0.0%	0.0%	75.4%	
	1,870	3,255	6,007	8,653	5,723	4,684	3,090	2,235	2,805				38,323	46,112
	62.6%	81.6%	94.0%	88.8%	81.0%	90.2%	59.6%	92.8%	89.1%	0.0%	0.0%	0.0%	83.1%	
その他 <small>(枝物、観葉植物、 苗木、植木、加工 品、その他)</small>	33	123	66	127	140	109	44	25	37				704	748
	118.5%	111.7%	86.6%	92.7%	82.0%	96.0%	102.0%	85.8%	95.8%	0.0%	0.0%	0.0%	94.1%	
	2,338	4,863	4,583	13,056	11,703	9,466	4,360	2,661	4,157				57,186	64,623
	110.4%	93.8%	82.9%	82.4%	81.9%	95.2%	91.0%	92.7%	102.6%	0.0%	0.0%	0.0%	88.5%	
合計	631	800	1,555	989	993	853	782	1,418	1,122				9,141	9,403
	104.1%	95.7%	93.6%	100.1%	94.1%	97.5%	91.7%	102.0%	98.8%	0.0%	0.0%	0.0%	97.2%	
	60,664	65,016	144,054	96,896	95,215	75,281	72,630	139,880	111,123				860,760	808,779
	125.1%	106.1%	96.9%	109.3%	111.7%	99.1%	100.8%	112.8%	106.5%	0.0%	0.0%	0.0%	106.4%	

3. 入荷及び価格の状況

〔切花〕

1月は、寒波と日照不足の影響で国産品の流通量は少なく、輸入品の入荷も不安定なため数量は伸び悩み、品目によっては高値で取引された。
 2月は、前月からの開花遅延の影響のため、全国的に流通本数が少なく単価高の傾向となったが、バラ・スプレー菊等のイベント効果もあり、多くの花が取引された。
 3月は、スターチス・スイートピーを中心に学校行事用として多様な花が取引され、動きの大きい月となった。春彼岸用として、小菊・スプレー菊引き合いも強く幅広い単価で取引された。
 4月は、月を通して引き合いは強かった。特に、スプレー菊では国産品のディスプレイが好調。また「母の日需要」の影響でカーネーションの引き合いも強く、単価高で取引された。
 5月は、例年、安定取引される切花とカーネーションだが、輸入品の入荷が不安定であったため国産品の引き合いが強くなり、単価高での取引となった。
 6月は、「父の日需要」としてヒマワリやカーネーション・バラ・ガーベラ等、黄色い花が多く入荷できた。特にヒマワリは、品種改良が進んだおかげで咲き方や色に多彩な表情を見ることができ好評だった。切花全体としては国産品、輸入品ともに単価高が続いた。
 7月は、高気温の影響から品質の低下が見られたため、入荷量は少なくやや高値での取引が続いた。菊類では、品種を一輪だけ大きく育てるディスプレイ系の引き合いが強かった。カーネーションは輸入品を中心にやや高値で取引され、バラは入荷量こそ少量だったが、中値以下の品の動きが良かった。
 8月は、7月から続く高気温と8月上旬から降り続いた長雨の影響から、お盆用の開花が遅れ入荷量減となったため、月を通してやや高値で推移した。一輪菊は安定的に入荷できたが、スプレー菊は国産品・輸入品ともにやや不足気味であったため高値が続いた。カーネーションはコロンビアから安定的に入荷できており、品質低下の影響も少なく、やや高値の取引となった。
 9月、切花の地場物は台風被害等により秀品率の低下がみられたが、全国的に単価高が続いているため、秋彼岸用の菊類の引き合いも例年に比べるとやや控えめであった。入荷量が少ないことにより、一輪菊では上等級品がやや不足、スプレー菊では輸入品の不足が目立った。国産品のカーネーションでは、北海道産から栃木県産へと産地が移り替わった。

〔鉢物等〕

1月は、贈答用の胡蝶蘭が中心で数量・価格ともに安定していた。3月は、県内産・東北産を中心に多くの苗木が販売されたが、動きはやや控えめであった。
 4月は、紫陽花やガーデニング用の苗木が例年よりは高値で取引された。植木は、「八戸市緑化まつり」の開催に向けた取引もあり、動きは良かった。
 5月は、苗木や観葉植物が多く入荷され、やや高値で取引されたが、生産コスト増の影響からか加湿を控える等の生育がなされているようで、成長にバラつきが見られた。植木は引き合い強く、芝生はやや高値傾向が続いた。6月は、蘭類・観葉植物が安定的に入荷できたが、動きはそれほど良くはなかった。8月は、例年よりも少ない数量ではあるが、贈答用の胡蝶蘭を入荷できた。
 例年9月下旬から入荷が始まる葉牡丹は、7月下旬からの日照不足と長雨の影響から生育が遅れており、入荷時期が先送りとなったため、来月以降に期待したい。